

2-4 東北大学所蔵外邦図の整理

およびその目録作成について

渡辺信孝(仙台都市総合研究機構)

I 東北大学が所蔵

している外邦図の経緯

現在、日本国内で外邦図を所蔵している機関としては、国立国会図書館、国土地理院、東京大学、京都大学、お茶の水女子大学などがある。その中でも東北大学理学部地理学教室では、最大級の約1万2千枚を所蔵している。これらは第二次世界大戦の終戦直後、1945年9月に、その価値に気づいた当時東北帝国大学理学部地理学教室の田中館秀三教授が市ヶ谷の大本営陸軍部より研究・教育用に持ち出したものである(岡本, 1995)。一時期、ごく一部の図幅は教育用に使われていたことがあったが、その後は利用されることもなく、長期にわたって未整理の状態が続いていた。

これらは、1995年に新設の東北大学理学部附属自然史標本館に収納されることになり、同年3月より外邦図の整理作業が開始された。それまで、外邦図は東北大学片平キャンパスにあまり良好ではない状態で保管されていた。作業は、整理および移送用に外邦図を段ボール箱に収納することから始めた。同時に図幅名、枚数、縮尺、緯度経度などの情報からなるリストを各段ボール箱ごとに作成した。しかし、外邦図の索引図が未入手のうえ、図幅の大きさが多様なために、収納する順番を決定することからして難題であった。地理学教室の教官・学生、十数名による約1ヶ月間の作業の後、外邦図は東北大学青葉山北キャンパスの自然史標本館に移送され、530個の段ボール箱はそのまま収蔵室の密集収納棚に納められた。

1995年9月に自然史標本館は開館した。自然史標本館では、14点(15図幅)が解説文と共に展示室に掲げられ、残りは収蔵室(306号室)に保管されている。利用の便を考えて、収蔵室においては、密集収納棚

内の段ボール箱のほか、各図幅1枚ずつがキャビネットに収められている。

2002年6月現在、東北大学で所蔵している外邦図の総枚数は72,363枚¹⁾であり、図幅数は12,209図幅である。ただし、東北大学の外邦図データベースでは、外邦図に含まれない旧日本海軍水路部作成の海図1,047図幅、戦前の日本国内(本土)の地図709図幅も管理の都合上この中に含まれている。

II 東北大学の外邦図データベース

段ボール箱に収納する際に作成したリストを基に、自然史標本館開館に合わせて、1995年9月に暫定版のデータベースを製作した²⁾。製作作業は筆者を中心に数人の学生によって行われた。ここにおける難題は、図幅名の漢字表記である。当然のことながら図幅名には、現在の日本では使用していない漢字が多数使用されている。使用頻度が高い漢字については外字を作成したが、しかし、とても対応しきれず、現字体を用いたり、また一部はカタカナの読みで表現している。それでも表現しきれない漢字については“@”で示している。

1996年2月から4月にかけて経緯度情報を追加した初版が作られた。1996年8月に一部図幅の国土地理院への譲渡・貸与が行われ、その過程で明らかになった誤りについて訂正を行った第2版が同年9月に製作された。その後、1998年2月に3.0版、1998年8月に3.1版、1999年9月に3.2版、1999年10月に4.0版を製作した。なお、最新版はマイクロソフト社製表計算ソフト「エクセル97」を用いた2002年6月作製の4.1版である。

3.0版の目録は、1997年夏に行われた京都大学および岐阜県立図書館への外邦図の譲渡に伴う枚数の変更を行っている。3.1版は、重複が確認された図

幅の削除・訂正などを行なった。3.2版では、大地域名の追加、地名情報の追加・修正などを行っている。

4.0版では、1997年夏に京都大学から頂いた京都大学所持分の外邦図のコピーを東北大学所持の外邦図の中に差し込み、その部分を修正したものである。

4.1版は、4.0版を微修正したものである。

データベースの項目は、整理用の番号、収蔵しているキャビネットの番号、収納棚中の段ボール箱の番号、収録地域名、図幅名、図幅の大きさ、使用している色数、縮尺、緯度および経度などである。ただし、緯度・経度に関しては例えばインド地域などではほぼ全てに記入されているのに対して、中国地域では約6割の図幅には記入されていない。また、一枚の図幅に複数の縮尺の地図が存在している場合には、代表的なものの縮尺を載せてある。データベースにおける地域の順番は、大まかな地域ごとに日本を中心とした反時計回りであり、樺太から始まり、中国、印度、オーストラリアを経て、海図や日本が最後になっている。また、各地域ごとに大縮尺から小縮尺の順に並んでいる。ただし、表現できない漢字の処理は未解決のまま残されている。外字による表現や“@”で示していたものはすべて“?”に変更になっており、このため、図幅名が“???”となってしまうものがある。

III 最後に

今後の課題は、測量年や測量国および難読図幅名の読み方などの情報の追加である。また、この外邦図データベースをインターネット上で公開することや、索引図を用いた検索を可能にすることを考えている。

東北大学の外邦図データベースは、利用可能なもっとも整備された外邦図データベースであり、今後、更なる活用が行われることを期待している。

枚を所有。実物とコピーには、重複している図幅がある。

2) この時点における使用ソフトはデータベースソフト「桐」Ver.5 (MS-DOS版)である。

文献

岡本次郎 (1995) 地理学教室創立の年, 東北大学理学部地理学講座開設 50 周年記念誌, 66-74.

渡辺信孝 (1998) 東北大学で所蔵している外邦図とそのデータベースの作成, 季刊地理学, 50 (2), 154-156.

渡辺信孝 (1999) 東北大学理学部所蔵の外邦図とその活用のためのデータベース, 地図, 37 (1), 29.

注

1) 実物 1,0581 図幅 68,216 枚、コピー 8,826 図幅 4,147